

アメリカジガバチ

「壁に拳^{こぶし}ほどの泥^{かたまり}の塊^{かたまり}がついていて、だれかのいたずらかと思っていたら、蜂^{はち}がその付近を飛び回っている。これはどういうことなのでしょう？」という電話がかかってきました。写真を送ってもらくと、下の写真でした。

最近、夏になるとこのような問い合わせが増えています。

皆さんは、このようなものを見たことがありますか？これは、アメリカジガバチという蜂^{はち}の一種が作った、幼虫を育てるための巣なのです。

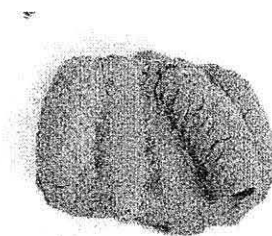
アメリカジガバチは、戦後すぐの頃に北アメリカから東京と大阪に入ってきた外来^{がいらい}の昆虫です。今では関東から西の地域、九州までも広がっています。

富山県では、1980年代に富山市で見つかりはじめました。その後、ぽつぽつと富山市内で見られるようになり、最近では県内の平野部に広く広がっているようです。

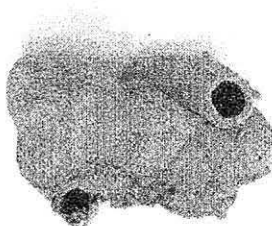
アメリカジガバチのメスは、体長2.5cmほどの細長い蜂^{はち}で、夏に、家の壁^{かべ}や塀^{へい}などの雨の当たりにくい庇^ひの下などに泥^{どろ}を使って巣を作ります。メスは、湿った泥のある場所からアゴで泥を丸め運んできてそれを壁^{かべ}などにはりつけます。何度も運び少しずつ泥の筒^{つつ}を作っていきます。直径が1cmほど長さが4cmほどの泥の筒^{つつ}が出来ると、こんどは小形のクモを狩^うってきて筒^{つつ}の中に入れ卵^{たまご}一つを産み付けます。クモは5匹から10匹程度入れます。このクモが卵^{たまご}からかえった幼虫のエサとなります。最後に、筒^{つつ}の入り口を泥でふさいで一つの部屋が完成します。こんな部屋を10部屋程度くっつけて作り、一つの泥のかたまりのようにしてしまいます。

産卵^{さんらん}から一月ほどで、新しい成虫が入り口の泥に穴を開けて巣から出てきます。羽化^{うか}した成虫は、どこか別の所で巣を作り、成虫が羽化した巣は再度使われることはありません。

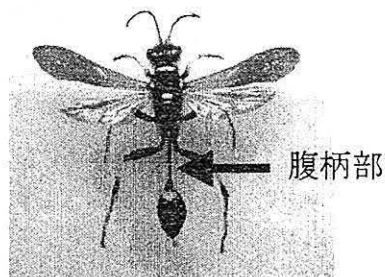
この蜂^{はち}は、人や動物に害を加えることはありませんので家のまわりを飛んでいても特に気にする必要はありません。ただ、壁^{かべ}や塀^{へい}を泥^{どろ}で汚^{よご}されるので気になる方もいるでしょうが、少々大目に見てやってはいかがでしょうか。



横から見たようす



下から見たようす



アメリカジガバチ

アメリカジガバチの泥の巣

日本在来^{こくご}のキゴシジガバチ（アメリカジガバチと姿形はそっくりで、細い腹柄部^{こくご}が黄色。アメリカジガバチはその部分は黒色。）も全く同様な巣を作り、同等な生活をしますが、富山県ではこちらのほうはたいへん少ないようで今まで1回の記録（黒部市）しかありません。

（2008年6月根来 尚）